（廿七日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭、第一第三日曜
定價　壹枚一錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　公所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遊沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

秋の宵に□□□

きくち生

不規律的ライフの中より出で始終幸福の心の所有者となるために、心の糧を魂の糧を日一日とより多くより深く攝取して行き度い。心の糧は小なりとも微なりとも、自分等の惰眠をさます清涼劑であらせたい。

◇

浩浄たる海水も岩もる清水の集まりかと思へば今の心を歎くにも當るまい、我々は小さき故に弱きか故に強きを欲し強きを欲する努力がある一歩一歩と善に向ふの時更によりよき善の基である事を忘却すまい。

◇

或一事を處するに當つて其事に身も心も奉仕する丈けの熱心さが欲しい、庭々掃くにも讀書するにも一字を書くにも如何に小さい事でも眞實にそれに對して自分の思へをみつしりとふくませたい、一切を空にして自己のすべてをあげて其事にベストを注ぐ、そうした純な心持でなし得た事の結果がよしや不成績であつても、最善を盡し得た喜びがある。

◇

他の者に煩さはれなかつた純潔さがある。其處に一つの意義が活躍する。常にこの事に留意して我等は一歩を眞劍に愛に死を通じての生命と共なる働きに生きねばならん。

ほんとうに一日一日を生活に脅かされてゐるよりも感じつゝ迫るよりも起つて粉骨の下に身心を自己の從事せる業務の中に投じて努力を捧ぐべきである。

一歩一歩正しき道へ歩みを續けて行つたならばたしかにその生は榮ある事を思ふ。

◇

逆境の地に處して人の親切さがしみじみと胸に答へる、零落して始めて人の誠を知る。悲哀を体験して人生の深刻味を知る、これ我々日常に多く考へさせられることだ。

讃美歌に——

「花散り失せては薪に賣られ家貧しければ人に捨てらる、誰をか頼みて何か頼らん、只神の結べ愛の友あり」とある

短くて長い人生の旅路逆境に落ち入り涙ずる人もあらう、零落の淵に苦しみなく人々も多からう復雜な人生は皆一様にと言ふ理には行かぬ。

◇

今生存の勝を占めて富豪と權威と名譽とを博し得ても神は永遠に其人を今の地位に安定せしめない事もある。人種の優越なる繁榮を異に求めてやまない程の人ならは名榮の地位にあればある程より以上大にして世の敗者をいたはり憐れむ情に深く切になり慰めつゝ人生の行路に美しい色を染め出して進む事は當然の事である。富や地位は神と相伴ふ富であり地位でありたへ自分一人でなく社の人の富であり權威であるべきである。

◇

時勢の進運に落伍する一擧手一投足の微の中にも、「永生」を思ひ靈魂の不滅を思ふの人は刻々に魂か磨かれて行く。人生の榮を願ふ時、すべての不純な分子を超越して尊い生の意義をしみじみ味はふ事が出來る。自分は人間として運命る下に生れた其上若い小人の域にある、けれども歴史上の否現在學びつゝある聖人の樣な道を一歩でも歩んで見たい。

明日の吉凶

舊暦八月三日
九月廿八日

▲一白　見込みたる事も中途にして行違ひを生じ易し▲二黒　表面の景氣に驅らるゝ時は糠喜びに終る日▲三碧　心靜なる時は運氣刻々と吉に向ひ進む日▲四緑　努力は萬福の基ゐ辛抱強き者は末勝を卓む　▲五黃　自信心を押へ大小となく目上に從ふて吉▲六白　引込み思案を起さず氣を勵まし進みて吉▲七赤　吉日なれど油斷すれば秩序次第に亂れん▲八白　內輪より事の破れを生ずることある日注意▲九紫　物に捲まざる時は大吉の日となる但し旅行凶

講談

血で血を洗ふ

(148)

高橋掬太郎創作
布施华八郎揮毫

悲歎の涙

清左エ門は奥方深雪の方の居間へ立寄つた。

奥方一大事が出來してござります」

と清左エ門は深雪の方に昨夜の事件を逐一物語らうとしたが流石の豪氣の清左エ門も限りない心痛のために顔色蒼然として暗雲に閉ざされたやうな有様であつた。

「えッ！千世姫か！」

と深雪の方は打ち倒れんばかりに激しく驚いた。

「して曲者は何方へ逃げ去つたか判りませぬか？」

「はッ直ちに八方へ役人を走らせましたが何分夜半の事とて遂に姿を認めることが出來かねました」

と清左エ門は曲者の様子を語つて

「曲者は七八名であつた由にてその中に天狗の假面をつけた者が一人ゐたといふことでございまするがその天狗の假面の怪人といふが甚だ疑問でござりまする」

と毎に松並木に現れる怪人の事を語り

「現に昨夜は拙者が出會ひましたが此の者なれば味方の者でござりまするから姫を盗み去つたにしても姫に危害を加へるためでなく姫を守護し奉るものと存じまするが七八人も黨を組んで忍び込んだと申すのがその怪人にしては訝かしき點でござりまする」

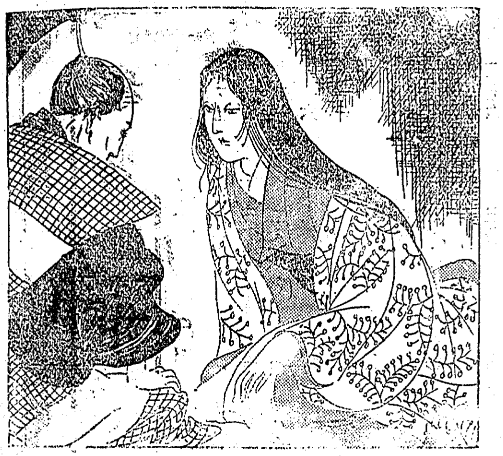
と首をかしげて云つた

「成程若し味方の怪人ならばよいが惡人であつたならば如何に致さうやら……」

と深雪の方は千世姫の身の上を案じて悲しみ歎いた。

松並木へ現れる怪人とせば姫は無事であらうがそれにしても怪人の正体は何者であらうか味方にはちがひないらしいが何者であるか申しまするかなかつた。

またこの怪人でないとせば姫を盗み出した怪人は何者であらうか？——昌康や重太夫の廻し者かも知れぬ



と清左エ門は考へたが若し昌康や重太夫の廻し者とせは姫を盗み出した目的は何であらう？」

それは云ふ迄もなく姫の命を奪ふためであらう

「若し昨夜の姫を盜んだ怪人が松並木に現れる怪人と別人とせば多分惡人業の廻し者であらうと存じまするがそれだとせば姫の命は無きものとせねばなりませぬ」

清左エ門の聲は悲痛であつた。

「いかさま惡人輩の廻し者とせば姫の命は危ういであらう。はてどうかして姫を救ふ道はあるまいか？」

と深雪の方は涙をうかべられて清左エ門の面を見つめていつた。

「救ひ度いにも行方が相判りませぬのでどうにも致し方がござりませぬ、しかも拙者は一切責任を負ふて謹愼する事に相成りましたござりませね」

清左エ門の聲は悲痛的であつた。

「ねつたん身が謹愼を仰せつけられましたと……」

深雪の方は更に驚ろいた

「自發的に謹愼せよとの昌康公のお言葉でござります」

「では曲者を探すことも姫を救ふことも……」

と深雪の方も絶望したやうに云つた。

「早山重太夫や川越軍治が必死になつて探し出さうと申しまするがそれがあてになつたものではござりませぬ」

「神部殿……」

と深雪の方は思ひ出し清左エ門にとりすがつ

「忠義のためとは云ひながら千世姫や御身にはいかい苦勞をかけますのう」

と聲をあげて泣いた

「いや苦勞はもとより覺悟の上でござりまする」

と清左エ門は氣をとり直し大やうに云つたがその聲は悲つうの思ひにふるへて居た。●

廣告

ちのくすり
御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

吉田眼科醫院

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社 藤掛商店
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
電話浪花三三五一番
振替東京三三四〇番
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

皇漢藥主劑
家傳靈藥 リウマチ湯
てがるになほせ
神經痛リウマチ
せんき腰足の痛
▽針や灸温泉つけ藥で治らぬ人
▽いかなる慢性にも効く
▽十人が十人性に合つて喜ぶ
全快せしもの數知れず、一日も早く服用せられよ
一定價　一圓、二圓、四圓
代理店 山野邊藥局 平町五丁目角

深キ經驗ト正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト優秀ナル技巧ニ依リ
多産廉賣
益々聲價ヲ漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳
指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

歯科口腔一般
診療時間（午前七時ヨリ午後八時マデ）
但シ急患ハ此限リニアラズ
平町南町成田山前
鈴木歯科醫院
歯科醫 鈴木五郎

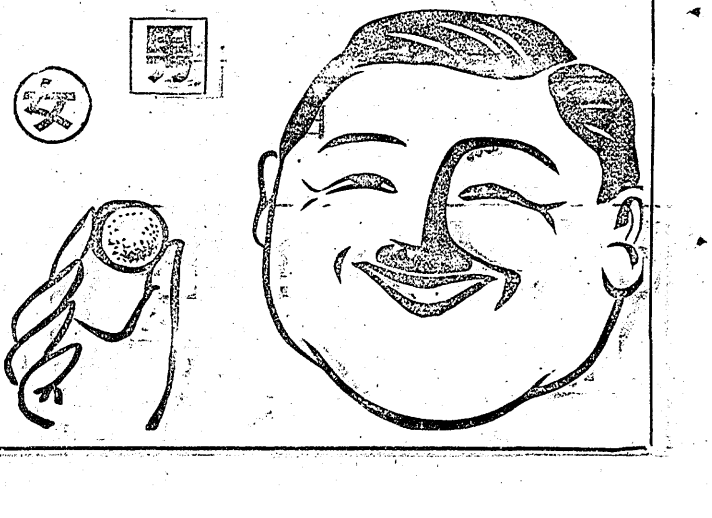
入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

三百年の古い歴史と
他の模擬(まね)の出來ない
獨特の芳香(かほり)と色澤(つや)を有(も)つ
ヒゲタ醤油
釀造元 銚子醤油株式會社
平町田町
特約店 廣瀬支店
電話五四番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
內科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

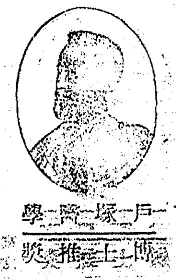
內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平長五〇七番

秋冬帽子案內
子供帽子
鳥打帽子
中折帽子
御好品ヲ澤山取揃ヘマシタ。
海岸線平町四
ツルヤ商店
電一四〇



生殖機能
衰弱を歎く人
旺盛を欲する人に
トツカピン
◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎
何ともいはれぬ人間味！

人 [illegible]
ど [illegible]
老 [illegible]
生 [illegible]
云 [illegible] ふまでもなくトツカピン [illegible]



戸塚醫學博士推獎
[illegible]
發賣元 丁子堂藥房
東京市[illegible]
大阪[illegible]
○全國到る處の有名藥店にあり

中秋の夜を徹して 選擧開票終る
悲喜交々の人垣を造り 發表までの選擧會場

石城郡に於ける縣會議員選擧は昨廿六日午前より引續き尾戸郡長以下各係員總動力を擧げて徹宵開票を急いだ結果、小川開票區は今廿七日午前二時半、植田開票區は同午前三時何れも選擧會場たる石城郡會議室に到着同午前四時より選擧會に移り午前六時迄に別項所載の如く鈴木辰三郎氏を最高點とし各候補全部の

得票判明するに至つたが昨廿六日午前八時平選擧會の開票を開始するや參觀人を二百名を制限したるため入場出來得ざる者數百名は場外に溢れて同會場の周圍に人垣を築き此れがため平署では當番非番巡査全部を召集し警戒の任に當つたが正午を終る頃から飯野村を劈頭に開票結果が續々發表されたので場內の立會人參觀人等から自黨の本部には其の度毎に

櫛の齒の如き急使を馳せ此の急使が持つ開票結果を寸時も早く知らんとしめき合ふ人群が毆り合を始むる者、喜悅を滿面に子供の如く躍り舞ふ者、悲嘆の極地に伏して慟哭する者等々其の悲喜交々の情景は眞に選擧ならでは見られぬ情景で悲喜交々の顏色は廿六日午後十二時を過ぐるも其の數は刻々增加するばかり、殊に政友派の

井上候補と民政派若松候補は互に同數をもつて終始し午後十二時を過ぐるも更らに勝敗の豫斷を許さず一開票毎に若松派が鳴を沈むれば井上派が鬨聲をあげ、井上派が默すれば若松派が雀躍して文字通り骨肉の激戰を演じたが午前十二時三十分若松候補の金城蕩地赤井の開票さるや六百八十二票、の多數を得たるに反し井上氏の最後唯一の賴みとする內郷、僅に二百の少數得票に依り

八百余の開きを見せて遂に井上派は泪を呑み此の接戰に時の過ぐるも忘れたかの如き群衆も流石に中秋の深更ボツ〳〵と同會場を引上げ見る〳〵人垣は崩れて殘るは僅に十二三を數へるのみとなつたが遂に其の後別項の如く確定午前五時に至り發表を見るに至つた

鈴木辰三郎氏

古川傳一氏

山崎吉平氏

各候補得票數
鈴木氏最高點

當選

四、四三五票	鈴木辰三郎
四、二二五票	鷲　清昇
三、九二〇票	古川傳一
三、七四〇票	野崎滿藏
三、六三八票	山崎吉平
三、〇九六票	若松美三

次點

二、二一二票	井上茂作
二、〇八二票	青沼銘太郎
八三二票	田子健吉
六五六票	廣瀬貞

民政派に呪はれた 田子氏の敗因
井上氏の落選したのは 選擧民の無自覺

井上茂作氏が然かも豫想を裏切り惜しくも落選した擧は普選初回の選擧に臨むだ選擧民の無自覺を遺憾なく發露したもので此は餘り多く語るを要しないが更らに中立候補田子健吉氏は當初非常なる人氣を以て全郡を風靡し當選確實を豫想されてあたに拘はらず二十一、二日頃より形勢全く急變斯の結果を見た事は即ち本田織江氏を中心とする野崎若松兩氏の巧妙な宣傳が最も有效に田子氏の地盤に大動ようを生ぜしめたものにして田子の敗因は實に此處に在りと言はれ非常に惜まれて

植田校落成
奉安庫も竣立

植田町小學校では愈々新築落成し來る十月十日同校に於て落成祝賀式を擧行する事になつたが尚同校では本月中旬より同校前に御眞影奉安庫々建設中にあり來月上旬迄に竣成の見込みで工費は一千五百圓であると

勞農黨演說
辯士檢束
昨夜平署に

勞働農民黨磐城支部聯合會では昨二十六日午後六時より平劇場で選擧報告演說會を開いた聽衆三百辯士十二名が立つて熱辯を振つたが中止を受けた者六名注意三十八回遂に會場そう然として聽衆より壇上にかけ上つて絕叫する者あり遂に臨監の小熊警部補に解散を命ぜられ山代支部長、渡邊西內、千葉の四名は檢束された

梅浦入山專務
歐露現狀講演
來る三十日來由を機に 磐城銀行樓上で

湯本町入山採炭株式會社專務取締役（大倉組參事）梅浦健吉氏は來る三十日頃來山を機とし平町磐城銀行樓上に於て氏が一年半に亘り露領森林會議委員長として實地に視察研究を遂げた農勞ロシヤの現狀並に歐州諸國の現狀について講演會を開く筈である

岩間海岸で
飛行
植田青年主催

植田町青年團では同町有志の後援で過般來東京民間飛行家の來町を交渉中であつたが愈々明廿八日岩間町岩間海岸に態岡民間一等飛行士が來遊し同海岸に於て飛行を決行する事になり當日は同青年團は警戒の任に當る筈で非常な盛況を豫想される

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

石城郡縣會議員選擧各町村投票分野一覽表

町村名	有權者數	棄權	失格	投票數	井上	山崎	鈴木	古川	若松	野崎	鷲	青沼	田子	廣瀬	山代
平	三七六五	四三九	七三	三二五三	九五四	三六五	三三一	一六	一四六	八九八	一〇五	三四九	二六	一五	〇
飯野	六〇七	四六	一〇	五五一	一二	四三八	三三三	一	二五	三八	〇	二	〇	〇	〇
鹿島	三六〇	三六	八	三一六	八四	九一	二八	一	三	五九	三三	三	四	〇	〇
江名	九五九	一〇七	一四	八三八	一七	一六	四九八	三六	二	一九三	四〇	一六	一	〇	〇
豊間	六五七	一二九	二一	五〇七	一	一〇	三三四	〇	〇	一二〇	四	一〇	一六	〇	〇
高久	四九二	四三	一五	四三四	五	七	三三四	〇	三	七七	九	二	五	〇	〇
夏井	五〇七	四六	二一	四四〇	一一	二一	二七一	四	一〇	一二	二	二	五	〇	〇
神谷	六四五	八一	一八	五四一	一六八	一〇七	八二	〇	四八	四四	五二	一五	一六	一〇	〇
草野	八一八	九四	一八	七〇六	七一	三二六	一〇一	一	一四一	二六	一五	四	八	二	〇
大浦	七八四	七三	二五	六八五	一〇	三七六	三〇	八四	一〇七	六	二七	二	二六	〇	〇
四倉	一二三六	二三五	五八	九五三	三九	三四九	一三四	二四	二〇四	一三〇	一〇	六	二二	一	〇
大野	八四五	一二六	八八	六三一	六	一九八	八七	一〇	二八九	四	九	五	一六	五	〇
平窪	六一四	五七	一四	五四三	二一	一五四	一九九	〇	一三一	一〇	二	一二	九	〇	〇
赤井	一一八二	一〇一	五〇	一〇三一	四	六五	二二二	八	六八二	四	一	一九	八	〇	〇
小川	八〇一	七九	四二	六八五	一四	一七	四〇六	一	二一三	二〇	〇	一	四	〇	〇
川前	六〇九	九二	六四	四五三	二九	三五	七二	〇	二七〇	一六	〇	六	一三	〇	〇
三阪	八一八	一一〇	三五	六七三	一七	一三	八六	〇	一二三	三	〇	〇	三四七	〇	〇
永戸	七〇八	一〇一	一五	五九二	九	三三	二三〇	〇	二五二	二二	二	三	二六	〇	〇
好間	一五九四	二〇九	二三	一三二八	五一	一一七	四二〇	一四	三六七	一二六	一九	四一	三三	一一〇	〇
內郷	三八六九	五七四	二〇七	二〇八八	二二三	三二九	一九六	一〇	二五	九一八	八六	八七二	二〇	四一〇	〇
湯本	一六八七	二六〇	二七	一四〇〇	五五	一四九	七六	一七八	一五	七七	四七一	二五八	一三	六一	〇
磐崎	一五七五	二四六	三六	一二九三	四八	一〇一	一三	一七三	一四	一六三	二七一	二二八	一〇	四五	〇
上遠野	八六七	八八	二五	七五三	九	一六	六	二五七	一	三七	三八二	一三	二八	〇	〇
入遠野	八四八	九九	一〇	七三九	二	九	三	二四一	〇	四〇	三二一	〇	一〇四	一	〇
田人	九一九	一二八	一二	七七九	四	〇	〇	四二二	六	一一	三一七	二	九	〇	〇
川部	六五一	六三	二二	五六六	二一	三八	二	三〇〇	〇	二	一八二	七	二	二	〇
勿來	一三七二	一五八	七四	一一四〇	二七	三三	二	四四一	一	八三	三五三	六九	一四	二	〇
錦	六五九	六〇	三六	五六八	〇	五	三	三五〇	一	七	二〇〇	四	一三	〇	〇
山田	六三三	四〇	三六	五五七	〇	八	〇	二八二	〇	一	二六〇	〇	三	〇	〇
植田	九九六	四六	五〇	九〇〇	一	三	一	四三九	〇	二	四四三	〇	八	〇	〇
渡邊	四〇五	三三	四	三六八	一	四	六	一四四	〇	一七	一八九	三	二	〇	〇
泉	七四七	三九	一四	六八八	一五	六二	三九	二四八	一	八〇	二三〇	三	三	〇	〇
玉川	四四五	二四	一三	四〇七	四二	三一	二九	五二	一〇	一六〇	六六	一二	二	二	〇
小名濱	一四一七	二〇六	五八	一一五三	二三六	一一二	一六七	一八三	九	二三三	二二二	四九	九	二	〇
合計	三五一〇〇	四二五八	一二二三	二九九五三	二、二一二	三、六三八	四、四三五	三、九二〇	三、〇九六	三、七四〇	四、二二四	二、〇八二	八三二	六五六	失格

當選御禮

昭和二年九月廿七日

鈴木辰三郎

健康第一
健康は胃腸から

ホシ胃腸藥

クスリはホシ
星製藥株式會社